

中 学 校

令和7年度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	2
V	研究構想図	3
VI	研究の実践事例	4
1	事例1 地理的分野	4
2	事例2 公民的分野	8
3	事例3 歴史的分野	12
VII	研究の成果と課題	16

## 研究主題

# 社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に課題追究できる生徒の育成 ～全ての生徒が主体的に情報収集や考察を行い、課題解決に向けて取り組めるための個々の見取りの工

## I 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領社会の目標では、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」の育成を目指すことが示されている。また、育成すべき資質・能力の一つとして、「社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度」と示されている。生徒が社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に課題追究できるようにすることが重要であることが分かる。

しかし、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」（中央教育審議会 令和6年12月25日）では「学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができている子供が多くなっていること」などの課題が提示されており、「現行学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば」であると指摘されている。

このことは、生徒が、どのように学習を進めたらよいかという、いわゆる「学習の進め方」の理解に課題を感じていることが原因なのではないかと考え、研究員所属校において、「学びに向かう力等に関する意識調査」（東京都教育委員会）の「4 学習の進め方（教科共通）」の調査項目を、社会科における実態アンケート調査として実施した。その結果、表1に示す6項目において、生徒の否定的な回答の割合が25%を上回っており、生徒は、社会科の学習において解決が困難な場面に出くわした際、学習を工夫しながら進めたり、他人と対話しながら学習を進めたりすることに課題を感じていることが明らかとなった。

表1 「研究員所属校で実施した社会科における実態アンケート調査」

調査項目	否定的な回答の割合
・学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。	34.20%
・他の人と意見が違ったときは、質問をして相手の考えを確かめている。	33.30%
・分からないときは、他の人や先生に質問して解決している。	26.25%
・自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。	50.36%
・他の人と相談して、考えを深めるようにしている。	26.81%
・答えだけでなく、考え方も確かめながら学習している。	26.00%

この結果から、教師は、生徒の学習が止まらぬよう、一人一人の状況を適切に把握し、解決が困難な場面には個に応じた支援をしていく必要があるといえる。また、研究員所属校の実態分析に基づき、特に、単元の中盤である課題追究における情報収集や考察の場面において、支援が必要であると考えた。

以上のことから、研究主題を「社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に課題追究できる生徒の育成～全ての生徒が主体的に情報収集や考察を行い、課題解決に向けて取り組めるための個々の見取りの工夫～」と設定し、研究を進めることとした。

## II 研究の視点

社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に課題追究できる生徒を育成するためには、生徒が課題解決に向けて主体的に情報収集や考察を行うことができるよう、教師が生徒の学習状況を適切に見取り、個に応じた指導の充実につなげていくことが重要である。そこで、次の3点から研究主題に迫ることとした。

### 1 学習状況の可視化

教具やタブレット端末などを活用し、生徒のつまずきにいち早く気付くことのできる環境を整える。また、教師と生徒が学習状況を互いに共有できるようにする。

### 2 支援につながる声掛け

課題追究に取り組むための学習方法を提示したり、ICT機器を活用して他者参照が促される環境を整えたりすることで、生徒の学びが停滞した状況を解消する。

### 3 教師の見取りを促進するワークシートの活用

教師が生徒の学びを見取るためのワークシート（以下「ふりかエール」という。）を開発し、授業で活用する。教師は記述を基に、次時で支援が必要な生徒をあらかじめ把握する。

## III 研究仮説

情報収集や考察の場面で学習状況を適切に見取り、支援につなげることで、個に応じた指導がより一層充実し、全ての生徒が社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に課題追究できるだろう。

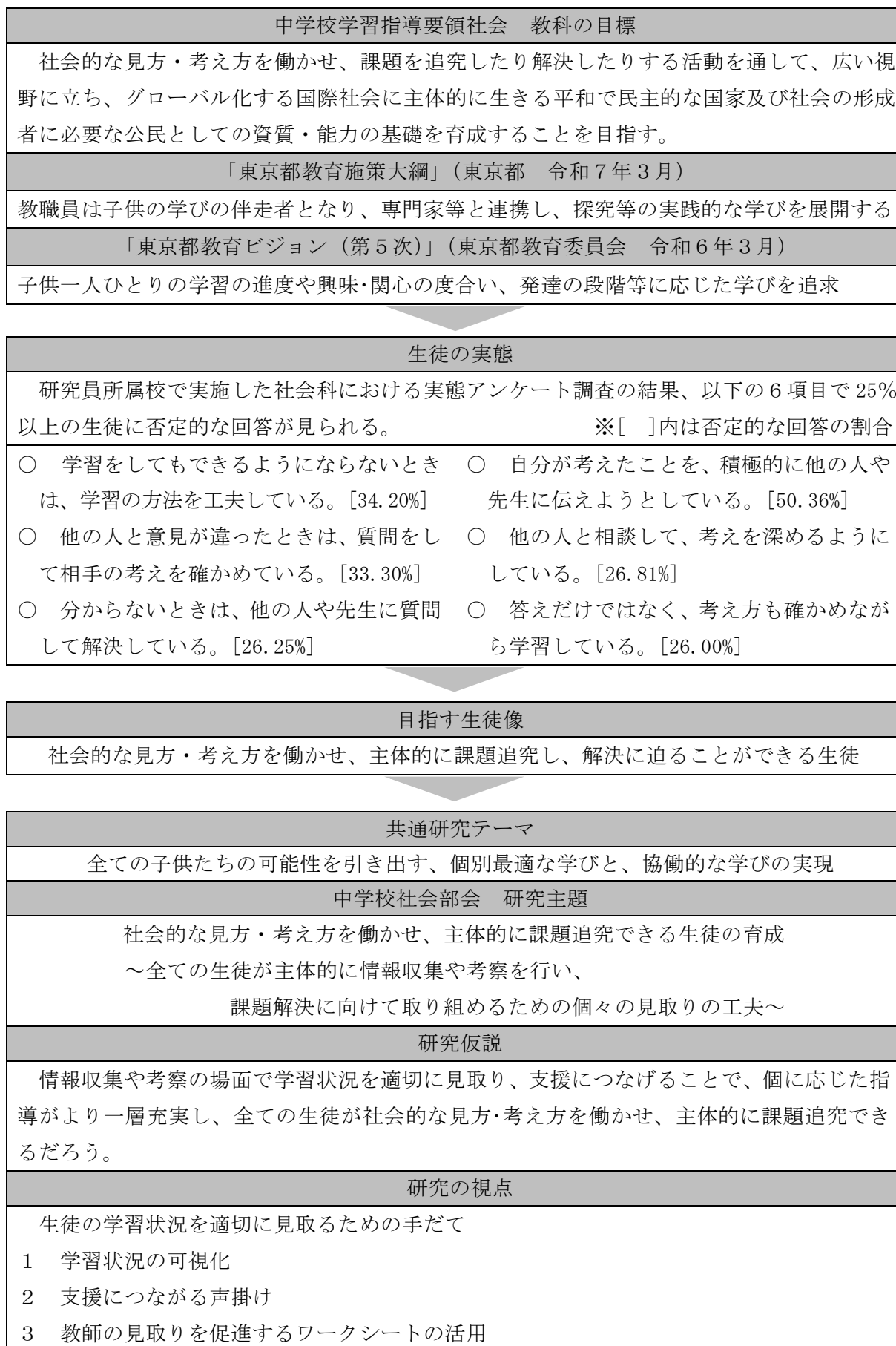
## IV 研究方法

○ 以下の資料を参考に文献研究を行う。

- ・ 中学校学習指導要領（文部科学省 平成29年3月）
- ・ 中学校学習指導要領解説社会編（文部科学省 平成29年7月）
- ・ 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会」  
（国立教育政策研究所 令和2年3月）
- ・ 『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」  
（中央教育審議会 令和3年1月26日）
- ・ 「第4期教育振興基本計画」（閣議決定 令和5年6月16日）
- ・ 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」  
（中央教育審議会 令和6年12月25日）
- ・ 「令和5年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』東京都全体の調査結果」  
（東京都教育委員会 令和5年9月）
- ・ 「東京都教育ビジョン（第5次）」（東京都教育委員会 令和6年3月）
- ・ 「東京都教育施策大綱」（東京都 令和7年3月）

○ 生徒へのアンケート調査や、生徒の「ふりかエール」への記述内容、検証授業における教師の見取りとその後の支援による効果等を基に、成果と課題をまとめる。

## V 研究構想図



## VI 研究の実践事例

### 1 事例1 地理的分野

#### (1) 単元名

B 世界の様々な地域 (2)世界の諸地域 ③アフリカ

#### (2) 単元の目標

ア アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、アフリカ州の地域的特色を大観し、地域で解決すべき課題や、その解決に必要な事象を理解する。

イ アフリカ州で見られる課題の要因や影響を、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けて公正に選択・判断し、表現する。

ウ 世界の諸地域で見られる課題とその解決に向けて、様々な価値観を受容し、よりよい社会を形成していくために地球に住む一人として課題を解決しようと主体的に追究する。

#### (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、アフリカ州の地域的特色を大観している。 ② アフリカ州で解決すべき課題や、その解決に必要な事象を理解している。	① アフリカ州で見られる課題の要因や影響を、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けて公正に選択・判断し、表現している。	① アフリカ州で見られる課題とその解決に向けて、様々な価値観を受容し、よりよい社会を形成していくために、地球に住む一人として、課題を主体的に追究しようとしている。 ② 世界の諸地域で見られる課題とその解決に向けて、様々な価値観を受容し、よりよい社会を形成していくために、地球に住む一人として、課題を主体的に追究しようとしている。 ※ ウ②に関しては世界の諸地域の学習全体を通して評価する。

#### (4) 単元について

本単元は中学校学習指導要領（平成29年3月告示）第2章第2節社会 地理的分野の内容B「世界の様々な地域」の「(2)世界の諸地域」に沿って設定したものである。

本単元では、空間的相互依存作用や地域に関わる視点に着目し、アフリカ州における主要生産品と人々の生活を題材に、地域的特色と結び付けて地球的課題の要因や影響を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することをねらいとする。アフリカ州の農産物を切り口に、貧困が解消されない状況の中で人口が将来的に急増するなど、複合的な課題が現れていることに気付かせ、地球に住む一人として課題解決やよりよい社会の形成に向けた態度を養うことを目指す。教材としては、教科書・資料集・地図帳を活用し、日本の諸地域との比較や世界全体との関連付けを通して、生徒が世界と自らの生活とのつながりを実感できるよう工夫する。

(5) 研究主題に対する手だて

本単元では、アフリカ州の「主要生産品と人々の生活」を題材に、地球的課題を多面的・多角的に考察する学習を構成する。教材は単に知識を提供するものではなく、生徒が自ら課題を追究する姿を引き出す契機として位置付ける。教師はその過程を丁寧に見取り、適切な支援を行うことで、生徒の課題追究に向かう意欲を高める。

具体的な手だては以下のとおりである。

ア 学習状況の可視化

個人のワークシートやメモ、グループでまとめた成果物を観察し、学習状況を見取る。また、生徒が教師の支援を必要とするときに提示するSOSカードを活用し、生徒の理解や進捗を把握する。

イ 支援につながる声掛け

生徒が課題に行き詰まった際には、「資料のどこに着目すればよいか。」「友達の考えとの違いはどこか。」などの地理的な見方・考え方に立ち返らせる問い掛けを行い、生徒自身の考察を広げることを意図する。また、他の生徒の成果物や意見を共有し、協働的な学びを深めるよう促す。

ウ 教師の見取りを促進するワークシートの活用

授業の終末には、図1のように、「ふりかエール」を用いて、「本時で新たに分かったこと」、「友達の意見で気付いたこと」、「次に調べたいこと」などを記述させる。これにより、生徒は学びを言語化して次の学習に備え、教師はその記述を基に次時の支援や指導に生かす。

ふりかエール (各時間の終わりに自分の学習を振り返ろう)		1年組 番氏名( )	
学習課題 アフリカ州の生産品や資源は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか		学習課題に対する予想	
第1時 / ( )	目標：アフリカ州の地形や気候について理解して、学習課題に対する予想をしよう(理解度、取組はA～Cで記入しよう)		
	理解度:	【授業で学んだこと、気になったこと、自分の考え】	
	取組:		
第2時 / ( )	①総合評価 ②強と? ③何を使って? ④どのように? ⑤どのようか?	⑥今回意識した地理的な見方・考え方 ⑦位置や分布(どこに位置している?、どのように分布している?) ⑧場所(そこはどのような場所?) ⑨人と自然とのかわり(自然環境からの[への]影響は?) ⑩地域どうしのつながり(他の場所との関係は?) ⑪地域の特徴(地域にどのような特徴がある?)	⑫今回わかったこと、わからなかったこと ⑬次回取り組むこと ※⑤や⑥を活かそう!
	①総合評価 ②強と? ③何を使って? ④どのように? ⑤どのようか?	⑥今回意識した地理的な見方・考え方 ⑦位置や分布(どこに位置している?、どのように分布している?) ⑧場所(そこはどのような場所?) ⑨人と自然とのかわり(自然環境からの[への]影響は?) ⑩地域どうしのつながり(他の場所との関係は?) ⑪地域の特徴(地域にどのような特徴がある?)	⑫今回わかったこと、わからなかったこと ⑬次回取り組むこと ※⑤や⑥を活かそう!
	①総合評価 ②強と? ③何を使って? ④どのように? ⑤どのようか?	⑥今回意識した地理的な見方・考え方 ⑦位置や分布(どこに位置している?、どのように分布している?) ⑧場所(そこはどのような場所?) ⑨人と自然とのかわり(自然環境からの[への]影響は?) ⑩地域どうしのつながり(他の場所との関係は?) ⑪地域の特徴(地域にどのような特徴がある?)	⑫今回わかったこと、わからなかったこと ⑬次回取り組むこと ※⑤や⑥を活かそう!
第5時 / ( )	目標：調べて学んだことをもとに、アフリカ州について白地図にまとめて、学習課題に対する自分の答えを記入しよう		
	①学び方の総合評価	理解度:	【学んだことの振り返り】
		取組:	

図1 「本単元の『ふりかエール』」

(6) 単元の指導計画と評価計画（5時間扱い）

		目 標	◎学習内容 ・学習活動	評価の観点			
					知	思	態
【単元を貫く学習課題】 アフリカ州の生産品や資源は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。							
課題把握	第1時	○地理的な見方・考え方を働かせながら、地理的事象に関わる諸資料を適切に読み取り、アフリカ州を大観するとともに、学習内容に興味・関心をもち、単元の学習の見通しをもつ。	◎地図帳を活用し、アフリカ州の地形や気候から自然環境の特徴を捉え、単元を貫く学習課題に対して予想を立てる。 ・学習した内容や考えたことを「ふりかえり」に記入する。 ・次回からは自分たちで教科書や地図帳等を使用して学習課題に向き合うことを確認し、学習の見通しをもつ。	●		●	
	第2時 (本時) ・ 第3時 ・ 第4時	○アフリカ州の各国で主要な生産品や資源を調べるとともに、その特徴や多く生産されている理由を多面的・多角的に考察し、表現する。	◎教科書、地図帳、資料集等を利用してアフリカ州における生産品や資源を調べる。 ◎気候や位置、歴史等に目して生産品や資源が多い理由を考察し、表現する。 ◎アフリカ州でさかんな産業と人々の生活の関わりについて、様々な資料から読み取り、自然環境や気候、貿易関係、歴史等から考察して表現する。 ・モノカルチャー経済がどのようなものか理解する。	●	●	●	
課題解決	第5時	○アフリカ州の地域的特色について調べたことを白地図にまとめ、アフリカ州のよりよい社会の形成について追究する。	◎アフリカ州について学習した内容を白地図にまとめる。 ・単元を貫く学習課題に対する自分の答えを記入する。	○	○	○	

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

(7) 本時の展開(全5時間中の第2時間目)

ア 本時の目標

アフリカ州の各国で主要な生産品や資源を調べるとともに、その特徴や多く生産されている理由を多面的・多角的に考察し、表現する。

イ 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 10分	○単元を貫く学習課題の確認 ・前時までの学習の復習をする。		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習課題を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掛地図で位置や分布を確認し、他の州の名称とともに、位置関係をつかませる。</li> <li>・学習課題を意識させる。</li> </ul>	
<p>① アフリカ州にある国では、どんなものが多く生産されているのか調べよう。</p> <p>② なぜ①で調べたものがその国で多く生産されるのか、地理的な視点から調べよう。</p>			
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○統計資料やグラフ、地図からの読み取り</li> <li>・アフリカ州にある国で、生産量の多いものや貿易品目として割合の高いものを調べる。</li> <li>・生産量が多い理由、貿易品目として割合が高い理由を調べる。</li> <li>・調べた内容をワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や地図帳、資料集を活用させる。</li> <li>・必要に応じて、デジタル機器を活用させる。</li> <li>・地理的な見方・考え方を働かせられるように支援を行う。</li> </ul>	イ-① (ワークシートの記述)
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の振り返りと次回の予告</li> <li>・「ふりかエール」に記入し、次回の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートと「ふりかエール」を提出させ、進捗状況を確認し、助言等を行う。</li> </ul>	ウ-①② (ワークシート・「ふりかエール」の記述)

## (8) 成果と課題

### ア 成果

- ・生徒が教科書や統計資料を地理的理由付けの根拠として活用する姿が見られた。これは、教材が単なる知識提供ツールではなく、課題追究の足掛かりとして機能したことを示している。
- ・SOSカードにより教師の支援が必要な生徒を即座に把握することができた。また、見取りを基に支援をした結果、生徒の課題追究が継続された。
- ・教員の声掛けを契機に、生徒同士が自発的に教え合ったり支援したりする場面が増加し、協働的な学びの土壌が育まれた。
- ・アフリカ州の生産や貿易を題材としたことで、生徒の社会的課題への関心と学習へのモチベーションが向上した。
- ・「ふりかエール」を活用することで、生徒が自身の学び方を振り返り、次への取り組み方を改善しようとする姿が見られた。

### イ 課題

- ・SOSカードは生徒が支援を必要とするときを把握することはできたが、生徒の学習状況を詳細には把握できなかった。生徒の進捗やつまずきを捉えるためには、他の手だての検討が必要である。
- ・「ふりかエール」への記述が達成度の確認にとどまる場面が多かった。生徒が自身の学び方を言語化できるよう、「ふりかエール」の改善が必要である。

## 2 事例2 公民的分野

### (1) 単元名

C 私たちと政治 (1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則

### (2) 単元の目標

- ア 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。
- イ 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、日本国憲法において人権保障が大切にされている理由について多面的・多角的に考察し、表現する。
- ウ 人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとする。

### (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。	① 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、日本国憲法において人権保障が大切にされている理由について多面的・多角的に考察し、表現している。	① 人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。

### (4) 単元について

本単元は中学校学習指導要領（平成29年3月告示）第2章第2節社会 公民的分野の内容C「私たちと政治」の「(1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」に沿って設定したものである。

本単元においては、個人の尊重と法の支配、民主主義など民主政治の基本となる考え方について理解できるようにするために、個人の尊重についての考え方を、現代社会において全ての人間に保障されるべき基本的人権を中心に深めることができるようにする。また、人権を守り社会生活を営む上で規範となることに法の意義があること、そして、法に基づいて政治を行うことによって基本的人権の保障を目指していることを理解できるようにし、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。その上で、日本国憲法の基本的原則、天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解できるようにする。

### (5) 研究主題に対する手だて

本単元では、生徒が社会的な見方・考え方を働かせながら、主体的に課題を追究する力を育成することを目指し、特に全ての生徒が情報を収集し、考察する過程に積極的に関わるための支援の在り方に焦点を当てている。そのための手だてとして、単元内に2回の探究活動を設定し、生徒が自ら問いを立て、情報を集め、考察・表現する機会を設けている。1回目の探究活動では、身近な人権課題を題材に、社会的な視点（対立と合意、効率と公正など）から考察する力を育成し、2回目の探究活動では、より広い視野で社会の在り方

や自分の役割について考えるよう促す。毎時間の終末に「ふりかエール」に記入させることで、どのような支援が生徒の主体的な学びを促しているのかを分析・検討する。これらの取組により、全ての生徒が課題追究に向かう姿勢を高め、公民的な視点から課題を追究できるようになるための、教師の支援の方法を明らかにしていく。

具体的な手だては以下のとおりである。

ア 学習状況の可視化

紙コップの色を進捗状況に応じて3色設定し、常に教師の見える場所に置かせて学習させることで、生徒の進捗状況を可視化する。教師が生徒の理解度や進捗状況を視覚的に把握できるようにすることで、支援が必要な生徒を見取る。

イ 支援につながる声掛け

教師が生徒のつまずきを見取り、質問→例示→定義付けの支援を行うことで、思考の焦点化を促す。

ウ 教師の見取りを促進するワークシートの活用

地理的分野での検証授業の課題を踏まえ、「ふりかエール」の「学び方の振り返り」欄を修正した。(図2)これにより、生徒が自身の学び方を言語化して振り返ることができるようにした。「ふりかエール」は、授業の終末に学びの内容や課題、次に調べたいことを記述させる。教師は、その記述内容を基に学習状況を見取り、次時の指導に活用する。

ふりかエール (各時間の終わりに自分の学習を振り返ろう)		3年 組 番 氏名( )	
学習課題 人権が守られる社会にするために、私たちはなにをすればよいだろう。			
★探究活動1			
	【1】 学び方の振り返り		【2】 学んだことの振り返り・次回に向けて
第2時	①誰と? 【個人・ペア・グループ】 ②何を使って? 【教科書・インターネット・その他】 ③どのように? 【グラフ・図・統計資料・写真】 過去の資料の内容・その他( )	◎今回意識した見方・考え <input type="checkbox"/> 対立と合意 (異なる意見や立場がある中で、どう合意形成を目指すか?) <input type="checkbox"/> 処罪と公正 (誰がとどろきなどどう対応するか?) <input type="checkbox"/> 個人の尊厳 (一人ひとりの人権や尊厳をどう守るか?) <input type="checkbox"/> 民主主義 (みんなで話し合い、合意を形成しながら意思を一つにしていけるか?) <input type="checkbox"/> 法の支配 (すべての人が法に服し、誰もが法律によって制約される) <input type="checkbox"/> 多様性 (異なる意見や、同じ異なる見解を尊重する) <input type="checkbox"/> 持続可能性 (環境・経済・社会のバランスをどう保つか?)	◎総合評価 <input type="radio"/> ◎ <input type="radio"/> ◯ <input type="radio"/> △ <input type="radio"/> × ◎総合評価理由 (良かった点・反省点)
第3時	①誰と? 【個人・ペア・グループ】 ②何を使って? 【教科書・インターネット・その他】 ③どのように? 【グラフ・図・統計資料・写真】 過去の資料の内容・その他( )	◎今回意識した見方・考え <input type="checkbox"/> 対立と合意 (異なる意見や立場がある中で、どう合意形成を目指すか?) <input type="checkbox"/> 処罪と公正 (誰がとどろきなどどう対応するか?) <input type="checkbox"/> 個人の尊厳 (一人ひとりの人権や尊厳をどう守るか?) <input type="checkbox"/> 民主主義 (みんなで話し合い、合意を形成しながら意思を一つにしていけるか?) <input type="checkbox"/> 法の支配 (すべての人が法に服し、誰もが法律によって制約される) <input type="checkbox"/> 多様性 (異なる意見や、同じ異なる見解を尊重する) <input type="checkbox"/> 持続可能性 (環境・経済・社会のバランスをどう保つか?)	◎総合評価 <input type="radio"/> ◎ <input type="radio"/> ◯ <input type="radio"/> △ <input type="radio"/> × ◎総合評価理由 (良かった点・反省点)
★探究活動2 探究活動2ではどのような学び方をすると良いかな? 学習の見通し...どのような点に着目すれば、予想が合っているか、確認できるだろうか考えてみよう。			
	【1】 学び方の振り返り		【2】 学んだことの振り返り・次回に向けて
第5時	①誰と? 【個人・ペア・グループ】 ②何を使って? 【教科書・インターネット・その他】 ③どのように? 【グラフ・図・統計資料・写真】 過去の資料の内容・その他( )	◎今回意識した見方・考え <input type="checkbox"/> 対立と合意 (異なる意見や立場がある中で、どう合意形成を目指すか?) <input type="checkbox"/> 処罪と公正 (誰がとどろきなどどう対応するか?) <input type="checkbox"/> 個人の尊厳 (一人ひとりの人権や尊厳をどう守るか?) <input type="checkbox"/> 民主主義 (みんなで話し合い、合意を形成しながら意思を一つにしていけるか?) <input type="checkbox"/> 法の支配 (すべての人が法に服し、誰もが法律によって制約される) <input type="checkbox"/> 多様性 (異なる意見や、同じ異なる見解を尊重する) <input type="checkbox"/> 持続可能性 (環境・経済・社会のバランスをどう保つか?)	◎総合評価 <input type="radio"/> ◎ <input type="radio"/> ◯ <input type="radio"/> △ <input type="radio"/> × ◎総合評価理由 (良かった点・反省点)
第6時	①誰と? 【個人・ペア・グループ】 ②何を使って? 【教科書・インターネット・その他】 ③どのように? 【グラフ・図・統計資料・写真】 過去の資料の内容・その他( )	◎今回意識した見方・考え <input type="checkbox"/> 対立と合意 (異なる意見や立場がある中で、どう合意形成を目指すか?) <input type="checkbox"/> 処罪と公正 (誰がとどろきなどどう対応するか?) <input type="checkbox"/> 個人の尊厳 (一人ひとりの人権や尊厳をどう守るか?) <input type="checkbox"/> 民主主義 (みんなで話し合い、合意を形成しながら意思を一つにしていけるか?) <input type="checkbox"/> 法の支配 (すべての人が法に服し、誰もが法律によって制約される) <input type="checkbox"/> 多様性 (異なる意見や、同じ異なる見解を尊重する) <input type="checkbox"/> 持続可能性 (環境・経済・社会のバランスをどう保つか?)	◎総合評価 <input type="radio"/> ◎ <input type="radio"/> ◯ <input type="radio"/> △ <input type="radio"/> × ◎総合評価理由 (良かった点・反省点)

図2 「本単元の『ふりかエール』」

(6) 単元の指導計画と評価計画 (9時間扱い)

目標	◎学習内容 ・学習活動	評価の観点		
		知	思	態
【単元を貫く学習課題】 人権が守られる社会にするため、私たちは何をすればよいだろうか。				

課題把握	第1時	○単元を貫く学習課題について、初発の考えからこれまでの学びから解決に役立ちそうな情報を挙げ、解決の見通しをもつ。	◎様々な「ちがいを確認し、それぞれの「ちがいは、「あってよいちがいは、「あつてはいけないうちがいは、を考へることを通して、探究課題を個人で決め、意見交流する。 ・「あつてよいちがいは」と「あつてはいけないうちがいは」を分類し、表に整理する。 (個人・ペア・グループ)	●		●
課題追究	第2時 ・ 第3時	○前時で選択した探究課題について調べ、根拠を収集し、それが正しいか考察する。	◎自ら選択した探究課題について、他者と協働し情報を収集・整理・分析する。 ・必要に応じて、協働的に探究課題を追究したり、情報を共有したりする。			●
課題解決・把握	第4時 ・ 第5時	○基本的人権がどのように保障されるか整理した上で、「新しい人権」について考へる。	◎前時までの探究課題の解説とその内容を整理する(平等権・自由権など)。 ・日本国憲法の改正は行われたことがないことから、制定当時の日本と現在の日本の状況の違いを考へる。	○		○
課題追究	第6時(本時) ・ 第7時 ・ 第8時	○社会の変化に伴い、新しい人権が認められるようになってきた理由を考察し、人権を守る社会を作っていくための課題を整理する。	◎グローバル化、情報化、少子高齢化などの社会が変化した視点を踏まえ、自ら選択した探究課題について、他者と協働し情報を収集・整理・分析する。 ・必要に応じて、他の生徒と協働して課題追究したり、情報を共有したり、他の生徒のワークシートを参照したりすることで、探究課題を整理する。	○		○
課題解決	第9時	○人権保障が大切にされている理由について、多面的・多角的に考察し、表現する。	◎単元を貫く学習課題に対する考へを記入する。 ・「Myじんけん宣言」を作成し、よりよい社会の実現に向けた提言を考へる。	○		○

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

(7) 本時の展開(全9時間中の第6時間目)

ア 本時の目標

社会の変化に伴い、新しい人権が認められるようになってきた理由を考察する。

イ 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 10分	○単元を貫く学習課題の確認 ・前時までの学習を復習する。 ・●●化が進む現状から、必要になる権利を予想する。	・既習事項である基本的人権について確認する。 ・グローバル化や少子高齢化、情報化等の内容を引き出せるようにする。	

	○新しい人権に関わる事例のカード（7種類）から、一つのカードを担当し、前時の活動形態（個人・ペア・グループ等）に分かれる。 ・本時の学習課題を確認する。	・前時の活動形態（個人・ペア・グループ等）で引き続き探究活動を行うことで、情報収集や分析を深められるようにする。	
社会の変化に伴い、新しい人権が認められるようになってきた理由を考察しよう。			
展開 35分	○前時の活動形態（個人・ペア・グループ等）で新しい人権が生まれた理由を、事例や裁判の判決などから考える。 ・新しい人権が認められてきた理由をワークシートに記入する。	・公民的な見方・考え方を働かせられるように質問→例示→定義付けの支援を行う。 ・紙コップを使い進捗状況を把握し、声掛けを行う。	イ-①（ワークシートの記述）
まとめ 5分	○本時の振り返りと次時の予告 ・「ふりかエール」を記入し、次時の見通しをもつ。	・ワークシートと「ふりかエール」から進捗状況を確認し、助言等を行う。	ウ-①（「ふりかエール」の記述）

#### (8) 成果と課題

##### ア 成果

- ・ 本單元における2回目の探究活動では、生徒自身が教科書やタブレット端末など情報収集に必要なツールを選択し、活用する姿が見られた。これは、1回目の探究学習において、情報収集の方法に課題を感じた経験を踏まえ、生徒自身が判断したものである。
- ・ 紙コップを用いて進捗状況を可視化したことで、教師にとって支援を要する生徒の把握が容易となった。さらに、生徒にとっても他の生徒・グループの状況を把握できやすくなった。その結果、生徒同士の新たな協働学習を促す環境を整えることもできた。
- ・ 教師が生徒のつまづきを見取り、支援を行った結果、思考の焦点化を促すことにつながった。
- ・ 「ふりかエール」により、生徒は自身の学び方を言語化して振り返り、教師は次時の指導に活用できた。

##### イ 課題

- ・ 情報収集の場面において、タブレット端末で調べた情報や、同じテーマで情報収集している生徒が調べた内容を書き写すだけになっている生徒が見られた。また、協働を促したい場面においても、交流が生まれずに、自分のグループで時間を持て余している生徒も複数見られた。このことから、情報の取捨選択の方法や、周囲との交流を経た知識の獲得など、学び方に対する更なる支援が必要であることが課題として浮かび上がった。
- ・ 「ふりかエール」への記入が達成度の確認にとどまる生徒が多く、前時の学び方や反省点を次の授業に生かすことができている。記入時間の設定や記入時の支援方法を検討する必要がある。

### 3 事例3 歴史的分野

#### (1) 単元名

B 近世までの日本とアジア (2)中世の日本

#### (2) 単元の目標

ア 武家政治の成立から展開までの社会の変化を理解し、民衆の成長と新たな文化の形成を捉える。また、モンゴル帝国の拡大や日明貿易、琉球王国の中継貿易など、東アジア地域の動向やユーラシア地域間の交流の中で日本が果たした役割を理解する。

イ 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業、文化の発達といった複数の事象を相互に関連付けて、中世の社会の変化の特色を多面的・多角的に考察し、言葉や図で表現する。また、古代との比較や近世へのつながりを意識し、中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。

ウ 中世の社会の変化や人々の生き方に関心をもち、当時の人々の努力や工夫に学ぼうとする。また、歴史を「現在とつながるもの」として捉え、自らの課題を見いだして探究する。

#### (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 武家政治の成立から展開までの社会の変化を理解し、民衆の成長と新たな文化の形成を捉えることができる。 ② モンゴル帝国の拡大や日明貿易、琉球王国の中継貿易など、東アジア地域の動向やユーラシア地域間の交流の中で日本が果たした役割を理解している。	① 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業、文化の発達といった複数の事象を相互に関連付けて、中世の社会の変化の特色を多面的・多角的に考察し、言葉や図で表現している。 ② 古代との比較や近世へのつながりを意識し、中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	① 中世の社会の変化や人々の生き方に関心をもち、当時の人々の努力や工夫に学ぼうとしている。 ② 歴史を「現在とつながるもの」として捉え、自らの課題を見いだして探究しようとしている。

#### (4) 単元について

本単元は中学校学習指導要領（平成29年3月告示）第2章第2節社会 歴史的分野の内容B「近世までの日本とアジア」の「(2)中世の日本」に沿って設定したものである。

この中項目は、武士の登場による変化を学ぶことを通して、社会が暮らしと深く関わりながら変化することを理解し、中世の特徴について説明できるようになることをねらいとしている。中世を大観するために、単元を貫く学習課題を「中世とはどのような時代だろうか」とした。他の時代との比較を通して、政治の中心が貴族から武士に転換したことや、近世にかけ武士の身分が変化することに資料から気付かせたい。また、単元のまとめとして、単元を貫く学習課題に歴史的な見方・考え方を働かせながら迫らせることで、多面的に考察・表現する力を育てていきたい。単元の終末において、生徒が学習を通して身に付けた資質・能力をまとめることができるように、各授業の終わりに振り返りの時間を確保し、学習の見通しをもたせる。また、単元を貫く学習課題だけでなく、生徒が自ら問いをたてることで、歴史を自分のこととして学ぶ姿勢を養えるようにする。

(5) 研究主題に迫るための手だて

本単元では、特に全ての生徒が情報を収集し、考察する過程に積極的に関わるための教師の見取りと支援の在り方に焦点を当てる。手だてとして、単元を6つの小単元に分け、それぞれの小単元の学習において1、2時間程度の探究活動を位置付け、生徒が自ら問いを立て、情報を集め、考察・表現する機会を設ける。内容ごとに小単元化することで、内容の理解についての見取りを容易にする。また、単元の中で問いの設定、情報の収集、考察・表現のサイクルを繰り返すことで、一回の教師の支援によって、生徒は以降のサイクルではつまづきを改善していくことができる。

ア 学習状況の可視化

教師は、授業前に「ふりかエール」と生成A Iドリルの結果を確認し、支援が必要な生徒を把握する。授業中にはICT機器を活用して生徒の学びを把握する。授業の終末には「ふりかエール」で生徒に自己評価をさせ、分かったことや疑問などを記入させる。

イ 支援につながる声掛け

まず、「ふりかエール」の記述について、他者参照させながら前時の振り返りを促す。次に、授業の序盤にやることを整理させ、学び方を提案させる。授業の中盤では、全体で進捗状況やつまづき等を共有するとともに、適切なタイミングで生徒同士の協働を促す。また、問い返しをすることによって学びを深めさせたり、新たな問いに取り組みせたりするとともに、新たな問いを共有させることで、生徒同士の協働を促す。

ウ 教師の見取りを促進するワークシートの活用

単元の始めでは、授業者が提示する単元を貫く学習課題に対する仮説を考えるための「ふりかエール」(図3)を作成する。「何が分かればこの問いに迫ることができるか」という、学びの視点を整理できるようにすることで、生徒が単元の見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。

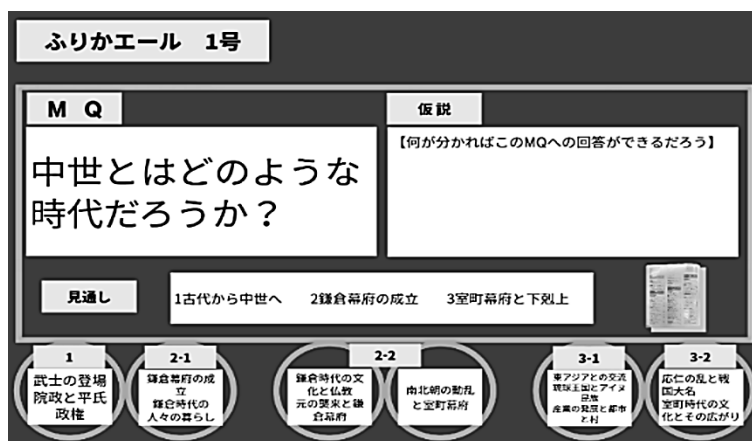


図3 「本単元の『ふりかエール』(仮説考察用)」

また、1単位時間の終わりごとに、自己評価をするための「ふりかエール」(図4)を記入する。生徒は自ら立てた問いに対して、学んだ内容と学び方の振り返りを記入する。このことにより、生徒自身がその日の学びを振り返り、思考の整理や次時への接続を図るとともに、教師が生徒の理解の状況や思考の深まりを把握する手がかりとする。「ふりかエール」は統合型学習支援ソフトを活用し、単元を貫く学習課題に自分の学びがどれだけ

迫っているか、社会的な見方・考え方を働かせることができているかについて確認できる内容としている。教師はこのような生徒の記述や発言、活動の様子を丁寧に見取り、どのような支援が生徒の主体的な学びを促しているのかを分析・検討する。

**ふりかエール (1①)**

<b>T Q</b>	<b>今日の学び</b>
振り返って... ①内容 ②学び方	①
できごと	人物
資料	時期
似ている	違い

図4 「本単元の『ふりかエール』(自己評価用)」

(6) 単元の指導計画と評価計画 (全18時間) ※第1時～第7時、第18時を記載。

		目 標	◎学習内容 ・学習活動	評価の観点		
				知	思	態
<b>【単元を貫く学習課題】</b>						
中世とはどのような時代だろうか。						
課題把握	第1時	○古代を振り返り、中世の学習の見通しを立てる。	◎単元を貫く学習課題に対する仮説を考え、学習の見通しをもつ。 ・仮説を考え、「ふりかエール」に入力する。			●
	第2時 ・ 第3時 ・ 第4時	○古代との比較から中世の特徴について説明する。	◎武士の登場から院政期を経て平氏政権が樹立されるまでを概観し、貴族から武士の時代へと移り変わったことを捉える。 ・武士が時代の中で成長してきた過程を資料や年表から説明する。		○	●
	第5時 ・ 第6時 (本時) ・ 第7時	○鎌倉幕府の成立時期の社会の変化を理解し、中世の日本の特徴を捉える。	◎鎌倉幕府の成立年代を題材に、歴史の多面的な見方に気付く。 ・資料や年表から「鎌倉幕府はいつ成立したのか」説明する。 ◎鎌倉時代、人々の暮らしがどう変化したのか読み取る。 ・資料から鎌倉時代の人々の暮らしを多角的に捉える。	○		●
課題解決	第18時	○単元を貫く学習課題に対する考えをまとめる。	◎中世とはどのような時代か、考えてまとめる。		○	○

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

(7) 本時（全 18 時間中の第 6 時間目）

ア 本時の目標

鎌倉幕府の成立時期の社会の変化を理解し、中世の日本の特徴を捉える。

イ 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 10 分	○単元を貫く学習課題の確認	・生徒の学びと単元を貫く学習課題を結び付ける。	
中世とはどのような時代だろうか。			
	○前時の学習内容の振り返り ・自ら立てた問いを基に、扱う資料や学び方を考えて、解決の見通しをもつ。	・生徒のこれまでの学びを見取り、学習内容や学び方でつまずきがある場合には、他者参照を促すことで支援を行う。	
展開 25 分	・生徒が自ら選択した学び方で、問いについて探究的な学びを進める。	・問いが近い生徒同士で共有ができるように学習場所の移動を促し、学びを進めさせる。 ・孤立した学びになっている生徒を見取り、協働を促す。 ・つまずきがある生徒を見取り、個別に説明することで、理解を深めさせる。	
まとめ 15 分	○本時の学習内容の共有・振り返り ・学習内容を生徒同士で説明して、内容の共有を行う。 ・「ふりかエール」に記入する。	・班で今日の学びを共有させ、学習内容を補完させる。	ア-①（「ふりかエール」の記述） ウ-①②（「ふりかエール」の記述）

(8) 成果と課題

ア 成果

- ・ 授業前に「ふりかエール」と生成 A I ドリルの結果から学習状況を把握することで、生徒の学習上の課題を把握した上で支援にあたることができた。
- ・ 「ふりかエール」を統合型学習支援ソフト内で記録させるなど、I C T 機器を活用することで、教師が授業中も生徒の思考の軌跡を詳細に追うことが可能となり、効果的に他者参照につなげることもできた。

イ 課題

- ・ 生徒が学びを深めていくために十分な時間を確保する必要がある、より効率的に既習事項を復習する仕組みが必要である。
- ・ 生徒が主体的に学ぶ姿勢を持続できるかどうかは、設定する問いの質に大きく左右されることが分かった。単元の導入部に、問いの設定を方向付ける支援が重要である。

## VII 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

#### (1) 学習状況の可視化

教具やタブレット端末などを活用して生徒の学習状況を可視化したことで、教師は生徒のつまずきにいち早く気付くことができ、教師自身の感覚に頼らない的確な支援を行うことができた。特に、生徒の「ふりかエール」を統合型学習支援ソフトで共有させたことは、教師が生徒の進捗状況や学習内容をリアルタイムで把握することを可能とただけでなく、生徒同士の他者参照を促し、協働的な学びを実現させる効果もあった。

#### (2) 支援につながる声掛け

検証授業では、学習状況の可視化によって見取ることができた支援が必要な生徒に対して、教師が的確なタイミングで声を掛けることで、学びの停滞を解消できた場面が多く見られた。また、授業前に生徒が記入した「ふりかエール」を確認しておくことで、その生徒にとって必要な支援を教師が的確に行えることも分かった。特に、その生徒に働かせてほしい社会的な見方・考え方を、教師が意図的にアドバイスできることは、生徒の社会的な見方・考え方を働かせた学びを実現する上でも効果があった。

#### (3) 教師の見取りを促進するワークシートの活用

「ふりかエール」の記述は、教師が支援の方向性を決定するための根拠となるとともに、授業後の指導の振り返りにも有効であった。教師は見取り、支援、授業展開の再設計という指導改善のサイクルを確立させることができた。また、「ふりかエール」の活用は、生徒が自身や他者の進捗を把握する手だてとしても機能し、自身の学習への意識付けや自己調整につながった。その結果、生徒自身が学びを主体的に改善する姿も見られた。

#### (4) まとめ

本研究では、単元の中盤の情報収集や考察の場面において、主に「ふりかエール」による学習状況の適切な見取りと支援を実践したことで、個に応じた指導をより一層充実させることができた。これらのことから、本研究は、生徒が社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に課題追究できることに寄与できることが分かった。

### 2 今後の課題

- ・ 授業前後の「ふりかエール」による学習状況の見取りは、生徒の社会的な見方・考え方を働かせた学びを実現する上で効果が大きかった一方で、教師にとって過度な負担になることがあった。見取りの目的を明確にし、負担軽減を図ることが必要である。
- ・ 教師が見取ることができる内容は生徒の「ふりかエール」の記入内容に左右されることから、記入時の支援や記入時間の確保も今後の課題といえる。
- ・ 生徒の主体的に学ぶ姿勢を持続させるためには、単元の導入部に、生徒が意味を見いだして学びに取り組めるような動機付けが必要である。「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」を実現させるためには、「単元の導入部における動機付け」及び「単元の中盤における見取りと支援」を共に充実させていく必要がある。

# 令和7年度 教育研究員名簿

## 中学校・社会

学 校 名	職 名	氏 名
港区立港南中学校	主任教諭	近藤 沙耶香
杉並区立高井戸中学校	主幹教諭	◎小野 泰大
練馬区立大泉中学校	主任教諭	松本 維志
足立区立第四中学校	主任教諭	新田 敦彦
足立区立青井中学校	主任教諭	居軒 宏一
調布市立第五中学校	主任教諭	太田 大地
福生市立福生第一中学校	主任教諭	遠藤 竣
東大和市立第二中学校	主任教諭	井上 建
東大和市立第四中学校	主幹教諭	菊地 祐太
あきる野市立東中学校	主任教諭	五味 英理佳

◎ 世話人

[担当] 東京都教職員研修センター研修部教育経営課  
指導主事 吉田 洋一

令和7年度  
教育研究員研究報告書  
中学校・社会

令和8年3月

編集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6869